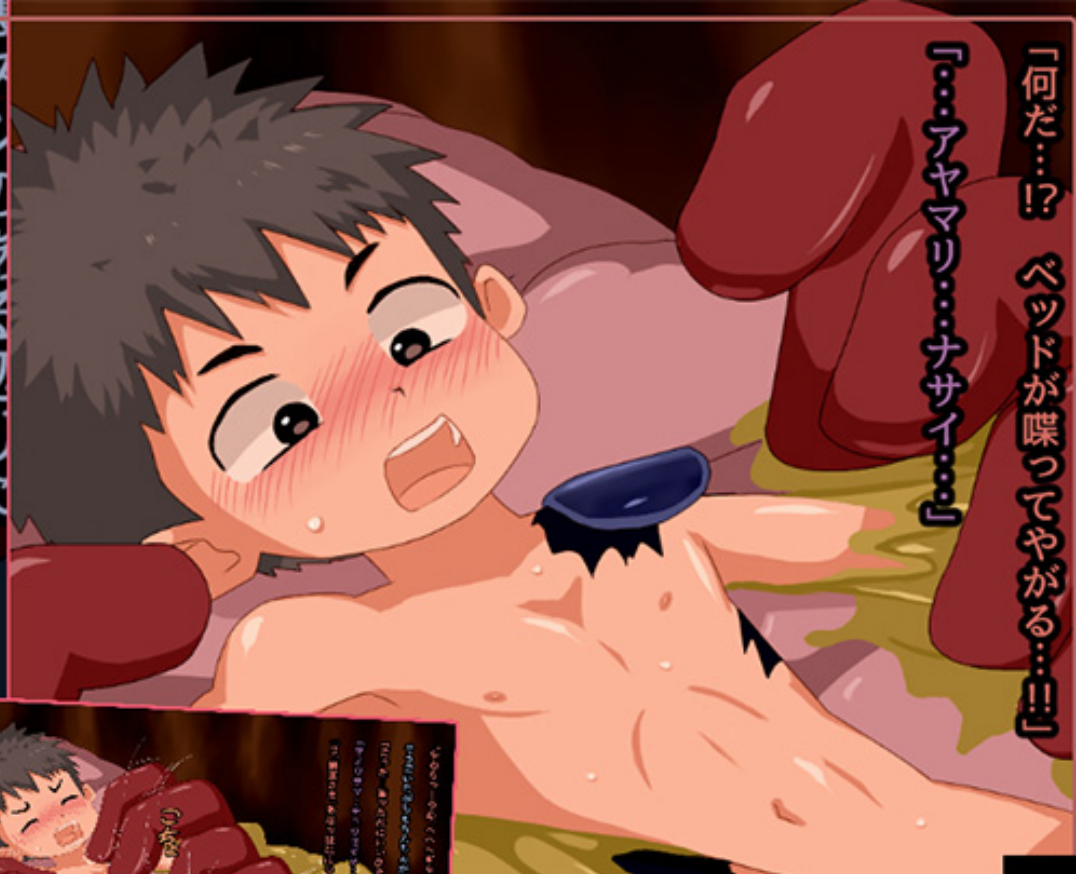


「何だ…!? ベッドが喋ってやがる…!!!」

「…アヤマリ…ナサイ…」



「…アヤマリ…ナサイ…」

「皮剥きから。」

「んちんの
き下ろす。」

「反転しながら
りと広がる。」

「えやめろおおおお…!!!」



捜術士ヨウスケと 搾精の巢

勇者シヨタたちを搾り尽くすCG集!!



「…ツツ!!!」
ル、ジュル、
ている。ん



「はっはっひゃっはっは
腹筋が震えている。
い取られながら笑っている」



基本14枚 総数355枚



「や、やっぱり本当の手を言いますっ!!!」
 「僕は捜術士で、救出のために必要な情報を探りに来
 「ここへ来るのは怖かったけど、任務だから仕方な
 なんです、だから許してください……」

「とか言ってるけどどうするんだよ」
 「お前の作ったこの魔法生物……ベルダに聞いてみよ
 「ベルダ、君は人間がウソを付いてるかどうかすぐ
 「……ふむふむ、へえ」

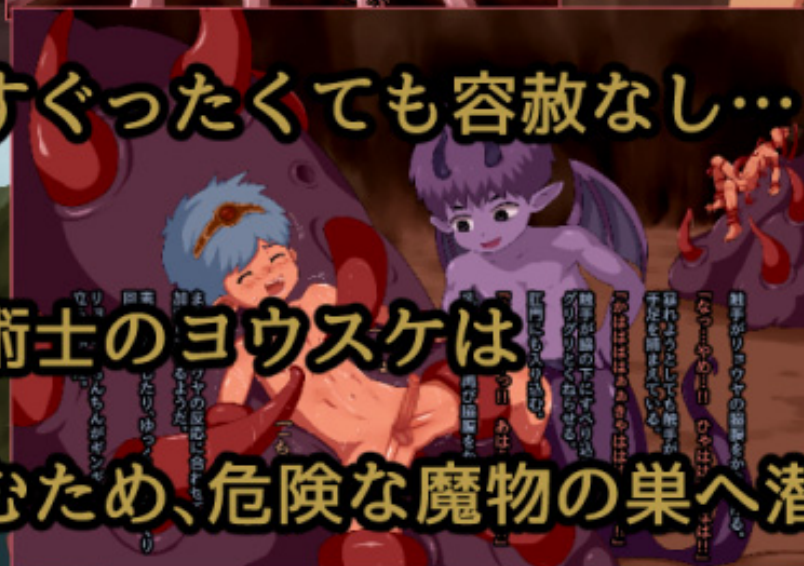
巨大な魔物の巣に連れ去られた少年勇者たちは死ぬまで搾精される…

薬を塗り込まれ…イカされ…射精後くすぐったくても容赦なし…

あらゆる気配を探知する事ができる捜術士のヨウスケは

捕われた少年勇者たちの位置情報を掴むため、危険な魔物の巣へ潜入する。

「やめ
 「やめ



「の音が止んだ。
 「うっ……もうやめ……ふあああつ!!!」
 「が叫んだ途端、顔に触手が巻き付いた。
 「……ちんちんこちよばいいい……っ!!!」
 「……興奮は冷めずにイカされ続ける。
 「……よりも恐ろしい装置。
 「……パス……ロイスが造ったんだらう。
 「……終わった。
 「……こないうちに
 「……の方が良い。
 「……して
 「……ブル
 「……ドクドク
 「……ブル
 「……ブル
 「……ブル

(体験版なので画像サイズは少し小さめです)

カルカ村から南西、川に挟まれた樹林地帯にある魔物の巣。

想像していた以上に大きな巣だ。



無数の魔物と人の気配を感じる。

あそこに多くの少年勇者が捕われているのは間違いない。

入り組んだ巣の中で魔物に気付かれずに
1人ひとりを見つけ出すのは至難。

しかし捜術士の僕ならそれができる。

捕われている正確な位置情報を救出部隊へ
知らせるんだ。



捜術士

人や物を探知する能力に長けた
搜索の専門職。

特殊訓練によってどんな状況下でも
恐怖や怒りなどの感情を抑え、冷静に
任務を遂行する事ができる。


ヨウスケ
HP 163
MP 127
LV 23

連れさられた少年は
必ず搾精される。

精液から魔力を取り出す為に。

葉と搾精器による快感は凄まじく、
延々と続く射精には屈強な精神を持つ少年勇者でさえ
耐えられないという。





今もあの中では多くの少年勇者たちが苦しんでいるに違いない。
1人でも多く見つけるんだ。

奥へ進むとさらに別の部屋が続いている。

中に人の気配が1つ…。

魔物の気配は小さい。

大した強さではなさそうだ。

さっきのインキュバスと比べるとまるでザコ。

でも油断は禁物……慎重に入ろう。



少年がベッドに縛られている。

ベッドに生えた巨大な指が少年を囲んでいる。
あのベッド自体が魔物らしい。

緑色の粘液のようなもので両手足を拘束されている。

あの少年……シンタだ。

戦士系の少年勇者で、前に一度だけチームを組んで戦った事がある。

「……はどこだ、オレをはなせっ!!」

「デハ……シヨウネン……ユウシャ……ラ……
オシオキ……シマス……」

「何だ……!? ベッドが喋ってやがる……!!」

「……アヤマリ……ナサイ……」



指がシンタの体からあっさり離れた。

「はあっ はあっ はあっ… はあ…っ」

「ソレデハ…マオウサマ…ニ…チュウセイ…ヲ…チカイナサイ…」

「お、オレは少年勇者だ…忠誠なんて誓えるわけないだろっ…」

「チカワナケレバ…チンチン…ニモ…オシオキ…シマス…」



再び指がシンタの体に食い込む。
指が滑らかに動き始める。

シンタの体がガクガクと震える。

「ま、待つ…いやはははは…やめっ…なははははああっ!!」

「チュウセイ…ヲ、チカイ…ナサイ…」

シンタが狂ったように暴れる。

腹筋が上下に踊り続ける。

「あはははっ、ひあははははっわかった、誓う…!!」



「やめろっ…やめ、へへへぎやははははははあ!!」

そう言いながらもちんちんがギンギンに硬くなっている。

「言った…言ったのにいいひやああやははははっ!!」

「マオウサマ・チュウセイラ・チカイマス、ト・イイナサイ」

「ま、魔王さま、あはっはははっ 忠誠を誓います!!」



「デハ：マオウサマ、ノ：タメニ：：セイエキ：ヲ：ササゲ：ナサイ：：」

「そんなっ、ひ、卑怯だ、だっははははあははあ!!」

シンタの股の辺りから搾精器具のようなものが現れた。
硬くなったシンタのちんちんへハメ込んでいく。

キツそうにゆっくりと差し込んで根本まで到達する。

グチュ、グチュ、と湿った音が鳴る。

「ちんこ…や、やめろ、くっ…くひひひ…!!」

振りほどこうとしても離れない。
股間の形に合わせてピッタリと密着している。



「インドク…ヲ…チュウニユウ…」

器具の中でチヨロロロ、と水の流れるような音がする。
ちんちんの中へ何かを注入されているらしい。

「くっ…や…ああ…くそ…」

ちんちんに力を入れているのか、グイ、と搾精器具が持ち上がる。

「あは…は…なっ…うあ…入ってくるっ…!!!」

シンタの顔がだらしなく緩む。

チヨロロ…



指がくすぐる動きを止める。
その隙にシンタが呼吸をする。

「はあっ はあっ はあっ…はあっ…」

「セイエキ…キュウイン…カイシ…」

ベッドの音がそう告げると、搾精器具がビク、ビク、と上下に動き始めた。

「な、ふ、ふああ…ちんこ……溶ける……」

見た事があるちんちんの動き。
射精している時の…。
硬くりズミカルな律動だ。

あの跳ね上げる1回1回が
シンタの中で極上の快楽を
感じさせているんだ…。

「はあ…はあ…あっ、あはあ…」

搾精器具の中でジュル、ジュル、と液体の音が鳴っている。



巨大な指がシンタの体から離れる。
シンタは全ての力を使い切ったようにぐったりとする。

「はぁ… はぁ… はぁ…」

搾精器具がちんちんを開放して穴の中へ戻った。

釈放されたちんちんは弱々しく萎えていた。

包皮をかぶり、白いヌメリでベトベトに濡れている。

「デハ… ショウネンユウシヤ… ラ… オシオキ… シマス…」

「え…っ!? 待つて…今それもう終わったから…!!」



「……アヤマリ……ナサイ……」

「やめ、あぎやはははっははははあああ!!」

指の動きがシンタを襲う。

シンタが反射的に体をしならせる。

「うっははははあはははっ」

射精したばかりの萎えたちんちんがあつという間に勃起上がる。
尿道の割れ目から透明の汁が垂れる。



勃起した途端、再び搾精器具が現れる。

「あっははひ、ひやはははははははっ」

笑っている間にちんちんに搾精器具が忍び寄る。
垂直に、ゆっくりズブズブとはめ込まれていく。

「やめろ、ちんこがもうっ…変になっ…なはははああっ!!!」

シンタが足を使って抵抗しようとするが、粘液に伸ばされてしまう。



「…セイエキ…キユウイン…カイシ…」

「くひひひあつ、あ…イク、…あ…っ…!!」

シンタの顔が歪み、搾精器具がビク、ビク、と上下する。

ジュル、ジュル、ジュル、と水の流れるような音が響く。

「あくぐ…っ…てる…っ イ…うあつ…あひやははははは!!」

魔物が作った搾精ベッド…。

戦闘能力はまるで弱いザコなのに、拘束されている者にとってはどうやっても勝てない強敵そのもの。

放っておいても的確に人間を苦しめ、搾り続けるようになっていく。

とにかく…記録を終えたから立ち去ろう。



「……セイエキ……キュウイン……カイシ……」

「くひひひあつ、あ……イク、……あ……っ……!!」

シンタの顔が歪み、搾精器具がビク、ビク、と上下する。

ジュル、ジュル、ジュル、と水の流れるような音が響く。

「あくぐ……っ……てる……っ イ……うあつ……あひやははははは!!」

魔物が作った搾精ベッド……

戦闘能力はまるで弱いザコなのに、拘束されている者にとつてはどのような勝てない強敵そのもの。

放っておいても的確に

人間を苦しめ、搾り続けるようになっ

とにかく……記録を終えたから立ち去ろう。

体験版はここまでです。

この先も、差分CGでストーリーが続いてヨウスケが巢の奥へ進んでいきます。(Hシーンはあと12個程度)

ご興味持たれましたらぜひお願いします。

っ
あ